

平成19年10月5日

厚生労働大臣殿

開設者名 学 大勝

昭和大学病院の業務に関する報告

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成18年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数 84人

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護婦及び准看護婦、管理栄養士その他の従業員の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数	
医師	339人	51.3人	390.3人	看護業務補助者	17人	診療エックス線技師	0人	
歯科医師	2人	0人	2人	理学療法士	1人	臨床検査技師	88人	
薬剤師	51人	2人	53人	作業療法士	3人		衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	0人		その他	0人
助産師	40人	2人	42人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	3人	
看護師	783人	12人	795人	臨床工学技士	15人	医療社会事業従事者	3人	
准看護師	4人	0人	4人	栄養士	0人	その他の技術員	1人	
歯科衛生士	2人	0人	2人	歯科技工士	0人	事務職員	114人	
管理栄養士	5人	0人	5人	診療放射線技師	45人	その他の職員	27人	

- (注) 1. 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2. 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3. 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数を単純合計を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当り平均入院患者数	737.2人	0人	737.2人
1日当り平均外来患者数	1,677.6人	14.9人	1,692.5人
1日当り平均調剤数	482剤		

- (注) 1. 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
2. 入院患者数には、年間の各科別の入院患者延数（毎日の24時現在の在院患者数の合計）を暦日で除した数を記入すること。
3. 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

1 高度先進医療の承認の有無及び取扱い患者数

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・顔面骨又は頭蓋骨の観血的移動術	有・無	人
・培養細胞による先天性代謝異常診断	有・無	人
・溶血性貧血症の病因解析及び遺伝子解析診断法	有・無	人
・経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法	有・無	人
・人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・無	人
・人工中耳	有・無	人
・実物大臓器立体モデルによる手術計画	(有)・無	0人
・性腺機能不全の早期診断法	有・無	人
・経皮的レーザー椎間板切除術(内視鏡下を含む)	有・無	人
・造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	有・無	人
・スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	有・無	人
・血小板膜糖蛋白異常症の病型及び病因診断	有・無	人
・焦点式高エネルギー超音波療法	有・無	人
・オープンMRを用いた腰椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術	有・無	人
・肺腫瘍のCTガイド下気管支鏡検査	有・無	人
・先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	有・無	人
・筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有・無	人
・SDI法による抗がん剤感受性試験	有・無	人
・内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	有・無	人
・栄養障害型表皮水疱症のDNA診断	有・無	人
・家族性アミロイドーシスのDNA診断	有・無	人
・三次元形状解析による顔面の形態的診断	有・無	人
・マス・スペクトロメトリーによる家族性アミロイドーシスの診断	有・無	人
・抗がん剤感受性試験	有・無	人
・子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断	有・無	人
・不整脈疾患における遺伝子診断	有・無	人
・腹腔鏡下肝切除術	有・無	人
・画像支援ナビゲーション手術	有・無	人
・悪性腫瘍に対する粒子線治療	有・無	人
・エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	有・無	人
・成長障害のDNA診断	有・無	人
・生体部分肺移植術	有・無	人
・門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	(有)・無	0人
・乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術	有・無	人
・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・無	人
・腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	有・無	人
・声帯内自家側頭筋膜移植術	有・無	人
・骨髄細胞移植による血管新生療法	(有)・無	5人
・ミトコンドリア病のDNA診断	有・無	人
・悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	有・無	人
・鏡視下肩峰下腔徐圧術	有・無	人

2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
ベーチェット病	24 人	ウィリス動脈輪閉塞症	0 人
多発性硬化症	17 人	ウェゲナー肉芽腫症	8 人
重症筋無力症	24 人	特発性拡張型（うっ血型）心筋症	0 人
全身性エリテマトーデス	196 人	シャイ・ドレーガー症候群	1 人
スモン	2 人	表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0 人
再生不良性貧血	29 人	膿疱性乾癬	1 人
サルコイドーシス	12 人	広範脊柱管狭窄症	0 人
筋萎縮性側索硬化症	5 人	原発性胆汁性肝硬変	30 人
強皮症,皮膚筋炎及び多発性筋炎	59 人	重症急性膵炎	15 人
特発性血小板減少性紫斑病	50 人	特発性大腿骨頭壊死症	14 人
結節性動脈周囲炎	1 人	混合性結合組織病	17 人
潰瘍性大腸炎	102 人	原発性免疫不全症候群	2 人
大動脈炎症候群	7 人	特発性間質性肺炎	1 人
ビュルガー病	0 人	網膜色素変性症	0 人
天疱瘡	1 人	プリオン病	0 人
脊髄小脳変性症	15 人	原発性肺高血圧症	1 人
クローン病	34 人	神経線維腫症	0 人
難治性肝炎のうち劇症肝炎	0 人	亜急性硬化性全脳炎	0 人
悪性関節リウマチ	20 人	バット・キアリ (Budd-Chiari) 症候群	0 人
パーキンソン病	44 人	特発性慢性肺血栓栓症 (肺高血圧型)	0 人
アミロイドーシス	4 人	ライソゾーム病	0 人
後縦靭帯骨化症	0 人	副腎白質ジストロフィー	0 人
ハンチントン舞踏病	0 人		

(注) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	月に8回開催	
剖 検 の 状 況	剖検症例数83例	剖検率15.2%

高度医療技術の開発及び評価の実績

1. 研究費補助等の実績

研究名	研究者名	所属	金額	補助・委託	補助元又は委託元
日母おぎゃー献金基金	岡井 崇	産婦人科	2,000,000	補	日母おぎゃー献金研究費補助金
子宮内膜症の卵巣明細胞癌、頰内腺癌への悪性化メカニズムの解明	小出 馨子	"	900,000	補	文部科学省
ヒトの感情認知と感情生成の臨床神経心理学的研究	赤羽 智子	"	1,300,000	補	文部科学省
HIFU(強出力集束超音波)の胎児治療への応用に関する基礎研究	岡井 崇	"	15,000,000	補	文部科学省
イソフラボン正常子宮内膜および子宮内膜癌に対する作用検討	矢内腹 敦	"	2,099,000	補	文部科学省
強出力集束超音波を用いた子宮筋腫の無侵襲治療装置と治療法の開発	市塚 清健	"	2,850,000	補	文部科学省
モデルマウスを利用した卵巣癌形成機構の解明	奥田 剛	"	2,349,000	補	文部科学省
妊婦抹消血中胎児有核赤血球を用いた無侵襲的な胎児遺伝子解析法の検討	松岡 隆	"	2,600,000	補	文部科学省
プレバイオティクスを用いた子宮頸管熟化抑制による早産抑制効果の検討	八坂 恭子	"	3,000,000	補	文部科学省
ヒト免疫細胞を組み込んだハイブリッド型人工皮膚モデルを用いた創傷治療の研究	加王 文祥	形成外科	1,700,000	補	文部科学省
癌抑制遺伝子p21を癌の診断に利用するための基礎研究	福地 邦彦	臨床病理	900,000	補	文部科学省
院内感染制御のための臨床分離細菌の分子疫学解析	五味 邦英	"	1,400,000	補	文部科学省
厚生労働科学研究費補助金(政策科学総合・推進研究専業分担研究者)	吉田 英機	泌尿器科	2,000,000	補	厚生労働省
心臓エリスロポエチン研究会	鈴木 洋	第三内科	700,000	補	(財)新潟医学振興会
厚生労働科学研究費補助金	水間 正澄	リハビリテーション科	500,000	補	厚生労働省
厚生労働科学研究費補助金	川手 信之	"	200,000	補	厚生労働省
高齢ドライバーの危機判断能力-光トポグラフィと皮膚電位反応を用いた検討-	三村 奨	精神神経	900,000	補	文部科学省
厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患克服専業分担研究者)	飯島 正文	皮膚科	2,000,000	補	厚生労働省
重症薬疹データベース	飯島 正文	"	1,650,000	補	(社)日本皮膚科学会
IL-17F(ML-1)の接触過敏反応における役割、および血管新生に対する影響	渡辺 秀晃	"	1,000,000	補	文部科学省
厚生労働科学研究費補助金(特別研究事業主体研究者)	有賀 徹	救急医学科	4,500,000	補	厚生労働省
平成18年度医療から見た交通事故と傷害に関する研究、研究費	有賀 徹	"	150,000	補	(社)日本交通科学協議会
平成18年度学術研究助成	土肥 謙二	"	1,000,000	補	(財)日本脳神経財団
2006年度交通事故医療研究会	中村 俊介	"	1,000,000	補	(社)日本損害保険協会
脳損傷における活性酸素の動態解明-gp91KOマウスを用いた基礎検討-	土肥 謙二	"	2,800,000	委	文部科学省
厚生労働科学研究費補助金(免疫疾患の既存治療法とその合併症に関する研究)田中 良哉	笠間 毅	第一内科	500,000	補	厚生労働省
第35回かなえ医薬振興財団研究助成金	川口 未矢	"	1,000,000	補	(財)かなえ医薬振興財団
Mutant EGFR発現細胞におけるgefitinibの細胞内薬理動態の検討	安藤 浩一	"	2,800,000	補	文部科学省
ヒト免疫細胞を組み込んだハイブリッド型人工皮膚モデルを用いた創傷治療の研究	加王 文祥	形成外科	1,700,000	補	文部科学省
厚生労働科学研究費補助金(医療技術評価総合分担研究者)	秋澤忠男	腎臓内科	50,000	補	厚生労働省
厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業進行性腎障害に関する調査研究協力者)	柴田孝則	"	120,000	補	厚生労働省
腎性骨異常栄養と異所性血管石灰化のクロストーク	秋澤忠男	"	2,450,000	補	文部科学省
血液透析患者における炎症、酸化ストレス、抗血管石灰化因子と動脈硬化進展との関係	本田浩一	"	1,000,000	補	日本腎臓財団
厚生労働科学研究費補助金(難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究分担研究者)	井廻 道夫	第二内科	1,500,000	補	厚生労働省
厚生労働科学研究費補助金(肝炎等克服緊急対策研究事業分担研究者)	井廻 道夫	"	3,000,000	補	厚生労働省
厚生労働科学研究費補助金(門脈血行異常症に関する調査研究分担研究者)	井廻 道夫	"	700,000	補	厚生労働省
厚生労働科学研究費補助金(ウイルスを標的とする発がん予防の研究分担研究者)	井廻 道夫	"	6,000,000	補	厚生労働省
厚生労働科学研究費補助金(胃癌の腹膜播種に対する標準的治療の各位)	金子 和弘	"	1,500,000	補	厚生労働省
厚生労働科学研究費補助金(早期消化癌に対する)	金子 和弘	"	1,000,000	補	厚生労働省
厚生労働科学研究費補助金(胃癌の腹膜播種に対する標準的治療の各位)	金子 和弘	"	1,500,000	補	厚生労働省
C型肝炎ウイルスによる感染B細胞内IRES依存性翻訳制御及び病原性発現機構の解析	伊藤 敬義	"	2,000,000	補	文部科学省
ヒトの感情認知と感情生成の臨床神経心理学的研究	河村 満	神経内科	7,250,000	補	文部科学省
表情・視線・身振りの脳内機構に関する臨床神経心理学的研究	河村 満	"	3,900,000	委	科学技術振興事業団(JST)
鼻副鼻腔の炎症・アレルギーとグルココルチコイドレセプターに関する研究	工藤 睦男	耳鼻咽喉科	300,000	補	文部科学省

2.論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
関節外科 25(12)62-69,2006	人工肘関節のデザインとバイオメカニクスからみた臨床評価 人工肘関節置換術の上腕骨側のX線変化を中心に	稲垣 克記	整形外科
臨床整形外科 41(4)361-366,2006	脊椎脊髄病学 最近の進歩 胸腔鏡を使用した胸椎脊髄症に対する脊髄前方除圧術	平泉 裕	"
統合リハ 34(9)847-852,2006	膝(診断・治療・リハビリテーション)	栗山 節郎	"
日本骨・関節感染症学会誌 2071-74,2006	当科における人工関節手術後の感染に対する治療	中村 正則	"
Hip Joint 32 84-88,2006	中年期以降の変形性股関節症の対する骨切り術の成績	中村 正則	"
骨・関節・韧带 19(3)241-250,2006	成長期のスポーツによる上肢の骨折の診断と治療	渡邊 幹彦	"
脊椎・脊髄神経手術手技 8(1)30-35,2006	中下位頸椎前方固定術後の偽関節に対する経椎間関節後方固定術の経験	神 興市	"
関東整災誌 37(4)190-190,2006	TLBCを用いた低侵襲腰椎椎体間固定術	平泉 裕	"
関東整災誌 37(5)222-224,2006	アレンドロネートとリセドロネートの骨代謝マーカーによる比較	永井 隆士	"
整形外科 57(12)1643-1648,2006	Fast-Fixシステムを用いたオールインサイド膝関節内半月縫合術の実験	栗山 節郎	"
日本脊髄障害医学会雑誌 18(1)、98-99,2006	中下位頸椎後方固定術における外側塊スクリュー挿入法および骨移植法の一工夫	神 興市	"
骨折 28(4)604-607,2006	肩鎖関節脱臼に対して Wolfer clavicular plate 単独での治療成績	宗近 賢一	"
Clin Exp Dermatol	Drug eruptions to contrast media in Japan	Masafumi Iijima	皮膚科
Int J Dermatol	Adverse reaction to geglitinil (Iressa): Revealing sycosis-and pyoderma gangrenosum-like lesions	Masafumi Iijima	"
J Dermatol	Drug eruption caused by the nonionic contrast medium Iotexol "recall-like phenomenon" appearing on an area previously affected by herpes Zoster	Masafumi Iijima	"
日本皮膚アレルギー学会雑誌	重篤な眼病変を伴ったが、全身療法・眼科的局所療法により失明を免れた Stevens-Johnson syndrome 進展型 Toxic epidermal necrolysis	飯島 正文	"
Video Journal of Japan Neurosurgery	巨大下垂体腺腫の複合治療	阿部 琢己	脳神経外科
Skull Base-interd Ap	optic Nerve Decompression for orbitofrontal Fibrous Dysplasia : Recent Development of surgical Technique and equipment	阿部 琢己	"
Noshiukei Geka	鞍隔眼下頭蓋咽腫に対する経鼻的腫瘍摘出術	阿部 琢己	"
Surg Neurol	Elecyromagnetic Field system (EMF) for Transsphenoidal surgery on Recurrent Pituitary Lesions-Technical Note	阿部 琢己	"
Geriatric Neurosurgery	当院における高齢者脳血管障害患者に対する摂食・嚥下訓練の取り組み	泉山 仁	"
GI研究	SSFSE-DWIによる下垂体部囊腫性病変の診断	国井 紀彦	"
神経外傷	気管切開した頸髄損傷後頸椎前方固定術施工患者における注意点	小林 信介	"
昭和医会誌	神経膠芽腫培養細胞の放射線照射による放射線耐性と遺伝子発見	福田 直	"
Parkinson Related Disord	Impaired decision-making in Parkinson's disease	三村 将	精神神経科
Rev Neurosci	Memory impairment and awareness of memory deficits in early-stage Alzheimer's disease	三村 将	"
Caley	Right unilateral jargonaphria as a symptom of callosal disconnection	三村 将	"
Psychiatry Clin Neurosci	Family history of alcoognitive recovery in supacute withdrawal	三村 将	"
Cancer Genomics and proteomics	Cytoplasmic localization of cyclin kinase inhibitor p21delays the progression of apoptosis	福地 邦彦	臨床検査科
臨床病理	昭和大学病院における多剤耐性緑膿菌が保有するメタロ-β-ラクタマーゼ遺伝子の解析	五味 邦英	"
臨床病理	ペニシリン耐性肺炎球菌におけるマクロライド耐性遺伝子の保有状況の解説	五味 邦英	"
Microbiol Research	Characterization of imipenem-resistant Serratia karocenscens producing IMP-type and TEM-type beta-lactamases encoded on a single plasmid	福地 邦彦	"
Br J Cancer	Study of p53 gene alteration as a biomarker to evaluate the malignant risk of Lugol-unstained lesion with non-dysplasia in the oesophagus.	Kaneko K et al.	第2内科
Hepatal Res.	Identification of novel hepatitis C virus-specific cytotoxic T lymphocyte epitope in NS3 region	Ito K et al.	"
J Gastroenterol.	Late toxicity in complete response cases after definitive chemoradiotherapy for esophageal squamous cell carcinoma.	Kumekawa Y et al.	第2内科

2.論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Hepato Res.	Immune responses of liver-infiltrating lymphocytes and peripheral blood mononuclear cells to hepatitis C virus core and NS3 antigens.	Tajima M et al.	第2内科
Regulatory Peptides	CSF hypocretin-1/orexin-A concentrations in patients with intracerebral hemorrhage (ICH).	Kenji Dohi	救急医学科
Antioxidant and Redox Signalling	Does edaravone (MCI-186) act as an antioxidant and a neuroprotector in experimental traumatic brain injury?	Kenji Dohi	"
Journal Neurotrauma	Alkoxy radical-scavenging activity of Edaravone (MCI-186) in patients with traumatic brain injury.	Kenji Dohi	"
Neuropeptides	CSF orexin A concentrations and expressions of the orexin-1 receptor in rat hippocampus after cardiac arrest.	Kenji Dohi	"
Acta NeuroChir	A Novel, Simple and Selective Nasopharyngeal Brain Cooling Method (Positive Selective Brain Cooling Method) -A technical note-	Kenji,Dohi	"
Acta Neurochir	Pharmacological Brain Cooling with Indomethacin in Acute Hemorrhagic Stroke-Anti-inflammatory cytokines and anti-oxidative effects-	Kenji Dohi	"
No to Shinkei	Quality assurance of medical treatment and preventable trauma death	Tohru Aruga	"
日本形成外科学会誌	CO2レーザー照射後人工皮膚モデルの組織再生に関する基礎研究	本田 衣麗	形成外科
日本美容外科学会会報	ヒトプラセンタが創傷治療に及ぼす影響の基礎的研究	網倉 良安	"
胸部外科	胸部外科の指針:肺癌手術後遠隔期のQOL	野中誠	第1外科
診断と治療	胸膜生検:そのアプローチ法と胸膜所見	"	"
昭和医学会雑誌	虚血再灌流障害皮膚モデルにおける抗LECAM-1抗体の有用性に関する研究	村松 英之	精神神経科
Showa University Journal Medical Sciences	Reduction of Ischemia-reperfusion Injury to Skin Flap by Monoclonal Antibody to Endothelial Cell Leukocyte Adhesion Molecule-1	Masakazu OHASHI	"
日本鼻科学会誌	スティック型嗅覚検査法による嗅覚障害評価の検討	篠 美紀	耳鼻咽喉科
日本耳鼻咽喉科学会誌	スティック型嗅覚検査法の精度に関する検討	篠 美紀	"
日本鼻科学会誌	嗅覚障害における Visual Anihlogne Scalを用いた嗅覚評価の検討	篠 美紀	"
日本鼻科学会誌	鼻汁吸着濾紙を用いた方法による鼻汁中ケモカインの検出	稲垣 幹矢	"
薬理と治療	ケトライド系抗生物質とオキシスロマイシンのT細胞サイトカイン産生に及ぼす効果の検討	許 芳行	"
Jpn. J. Antibiotics	クラリススロマイシンのヒト樹状細胞活性化抑制作用	金井 憲一	"
In Vivo	Suppressive effect of fluticasone Propionate on MMP expression in the nasal of allergic rhinitis patients in vivo	Yoshiyuki Kyo	"
Radiat Med	Preliminary examination to determine the suitable contrast material injection protocol for CT angiography of the pelvis and lower extremities with a multidetector row helical scanner	本田 実	放射線科
Curr Probl Diagn Radiol	Atlas of breast magnetic resonance imaging	廣瀬 正典	"
Am J Hematol	Reversible Posterior Leukoencephalopathy Syndrome After Repeat Intermediate-Dose Cytarabine Chemotherapy in a patient with Acute Myeloid Leukemia	Bungo Saito	血液内科
Journal of Allergy and Clinical Immunology	The IL-17F signaling pathway is involved in the induction of IFN- γ -inducible protein 10 in bronchial epithelial cells	川口 未央	第1内科
International Archives of allergy and Immunology	Expression on Interleukin-17F in a Mouse Model of Allergic Asthma	川口 未央	"
日本消化器外科学会誌	LED励起ICG蛍光をトレーサーとした新しいセンチネルリンパ節同定法-消化器癌への応用-	草野 満夫	第2外科
Ther Apher Dial. 10:273277,2006	Osteopontin expression in vascular smooth muscle cells in patients with end-stage renal disease.	Nakamura H	"
日本透析医学会誌. 40: 271-274, 2007	血液透析患者の無症候性心筋虚血とpulse wave velocity.	向井正法	腎臓内科
Nephrol Dial Transplant. 22: 965-966, 2007	Chlamydia pneumoniae infection and MPO-ANCA-associated glomerulonephritis.	Iyoda M	"
Ultrasound in Medicine and biology, vo132, 5S, p54, 2006	Occlusion of the feeding artery by high intensity focused ultrasound : Noninvasive treatment for gynecologic tumors	Okai T	産婦人科
Prenat Diagn. 2006, 26(6): 545-7	Enrichment of NRBC in maternal blood: a more feasible method for noninvasive prenatal diagnosis	Okai T	"
J Assist Reprod Genet. 2006, Feb; 23(2): 63-67	Sperm Remained Site and its Influence on Cleavage Rate and Early Development following Intracytoplasmic Sperm Injection	Yanaihar A	"
Arch Gynecol Obstet : 275, 331-4	Recombinant human lactoferrin has a potential to suppresses uterine cervical ripening in preterm delivery in animal model	Yakuwa K	"

小計 34

合計 69

(様式第12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 飯島正文
管理担当者氏名	管理課長 阿久津直利

		保管場所	分類方法	
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方箋、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係わる入院期間中の診察経過の要約		管理課 診療録管理室	病院日誌は各年度ごとに保管。それ以外は1患者1ファイル及び1ジャケットまたは、1入院1診療録単位に診療記録をファイリングし、外来、入院、X線写真を区分して保管している。	
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業員数を明らかにする帳簿	人事課		
	高度の医療の提供の実績	管理課		
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課		
	高度の医療の研修の実績	管理課		
	閲覧実績	診療録管理室		
	紹介患者に対する医療提供の実績	医療連携室		
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	薬剤部		
	全規 管則 第9 た条 めの 2 体3 制及 確 保第 11 条各 号に 掲 げる 安	専任の医療に係る安全		医療安全管理室
		管理を行う者の配置状況		〃
		医療に係る安全管理を行う部門の配置状況		〃
		当該病院内に患者からの相談に適切に応じる体制の確保状況		〃
		医療に係る安全管理のための指針		〃
		医療に係る安全か理のための委員会の開催状況		〃
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	〃		
	医療機関内の事故報告等の医療に係る安全確保を目的とした改善のための方策の状況	〃		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 飯島正文
閲覧担当者氏名	診療録管理士 鎌倉由香
閲覧の求めに応じる場所	診療録管理室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	4件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	2件
	地方公共団体	延	2件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	54.8%	算定期間	平成18年4月1日～平成19年3月31日
算 出 根 拠	A：紹介患者の数		13,646人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		7,134人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		6,818人
	D：初診の患者の数		43,228人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dは、それぞれの延べ数を記入すること。

(様式第13-2)

規則第9条の2 3及び第11条各号に掲げる体制の確保状況

①専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (2名)
②専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (1名)
③医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有
・所属職員 : 専任 (2名) 兼任 (7名) ・主な活動内容 1) 医療安全対策の推進に関すること。 2) 医療事故に関する報告窓口業務。 3) 医療事故に関する初期情報収集と対応。 4) 医療事故等の原因究明と必要な指導を行うこと。 5) 医療安全管理について職員への教育及び周知徹底業務。 6) 医療安全管理・対策委員会の議事録に関する業務。	
④当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有
⑤医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有
・指針の主な内容 別添1	
⑥医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12回
・主な活動内容: 1) 医療事故等の防止・安全管理体制の確保のための委員会を開催	
⑦医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 6回
5月26日 テーマ「リスクマネジメントの新たな展開」 参加者618名 6月26日 テーマ「輸液に関する医療過誤防止について」 参加者553名 7月7日 テーマ「院内感染対策 当院における現状について」 参加者462名 9月27日 テーマ「危険薬剤とその取り扱いについて」 「医療監視報告と医療安全対策について」 参加者449名 11月21日 テーマ 「医療過誤と訴訟」 参加者812名 1月11日 テーマ 「医療安全と診療録」 参加者566名	
⑧医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	(有)
・医療機関内における事故報告等の整備 ・その他の改善のための方策の主な内容: インシデント事例は、テーマ別分科会において横断的に編成された分科会委員(各部署リスクマネージャー)がテーマ別分科会で検討された分析・改善策について、MRM委員会へ報告する。MRM委員会で報告に基づいて医療事故の防止対策業務改善の検討および推進を図る。アクシデントについては、医療安全管理・対策委員会において問題点の分析及び対応及び改善策を検討する。問題点の分析及び改善策は、各種委員会で報告する。	

昭和大学病院の医療事故等の防止・安全管理のための指針

(趣旨)

- 第1条 昭和大学病院は、高度の医療を提供する特定機能病院として、安全管理のための体制を確保する。
- 2 医療事故等の防止については、医療行為を行う医療従事者個人の努力が必要であることは当然である。しかし、高度化・複雑化する医療環境の中で医療従事者個人の協力に依存した事故防止のみでは対応に限界がある。このため昭和大学病院が組織的に医療事故等の防止について、患者と医療者とは同じ目的に向かって協働するという立場に立ち、患者が安心して医療をうけられる環境を整えるために、次のとおり安全管理指針を定める。

(基本的な考え方)

- 第2条 昭和大学病院で診療中あるいは病院内において医療事故が発生した場合、直ちに現場にいる医師、看護師、他の医療従事者、事例によっては一般人の協力を得て事故者への救命処置を行い、生命の安全を確保し、治療に最善を尽くすとともにその発生原因を調査分析し、今後の事故防止とその対応について委員会で検討するとともにマニュアル等を整備する。
- 2 患者と医療者間は協働している。すなわち密なコミュニケーションを図り、日常から信頼関係を維持する。
 - 3 病院全体として医療事故防止に取り組むために、各診療科及び各職種の横断的な組織を設けて対応する。また、情報は早期に把握することが重要であるため、報告の徹底を図るとともに、報告内容の分析を通じて医療事故防止に活用する。

(安全管理の体制確保)

- 第3条 安全管理の体制確保のために次の委員会及び医療安全管理室を設置する。
- 昭和大学病院に医療安全管理・対策委員会及び医療安全管理室を設置する。
- 2 医療安全管理・対策委員会の下部委員会として副院長、各診療科、各部署より推薦されたリスクマネージャー若干名によるメディカルリスク・マネジメント委員会並びにテーマ別分科会を置く。
また、必要と認めたときには専門小委員会をおくことができる。
 - 3 医療安全管理室は、医療安全管理・対策委員会の指示のもとに業務を行うものとする。
 - 4 病院長の管理のもと、発生した重大な医療事故について速やかに適切な対応を図るための審議は、医療安全管理室において行う。
 - 5 医療安全管理室内規は別に定める。
 - 6 病院長は重大な医療事故が発生した場合、事故の事実関係を明らかにし、その対応、並びに再発防止策を検討するため、専門小委員会を設置する。
 - 7 組織横断的立場で、専任の医療に係る安全管理を行う者として、医療安全管理者を配置する。

(医療事故等の院内報告制度)

第4条 医療事故等の院内報告制度を導入する。

- 2 病院の安全管理を改善する事を目的として、医療事故等の院内報告制度（状況報告書（Adverse Event の情報）・インシデント報告書）を導入し病院内で発生した医療事故等を把握・分析する。
- 3 医療リスクマネジメント委員会は、院内感染防止対策委員会など関連の各種委員会と連携し、医療事故等の防止にあたる。
医療リスクマネジメント委員会は、原則として月1回定例会催する。なお、医療リスクマネジメント委員会に関する規程については別に定める。
- 4 医療リスクマネジメント委員会のもとにテーマ別分科会を設置し、報告事例について原因や状況の分析、改善策を検討する。
テーマ別分科会は原則として月1回定例開催することとし、改善対策を医療リスクマネジメント委員会に報告する。

(リスクマネージャーの配置)

第5条 医療事故の防止に資するため、医療リスクマネジメント委員会及びリスクマネージャーを配置する。

- 2 医療安全管理室にゼネラルリスクマネージャーを置き、医療安全管理室内規による業務を行う。
- 3 リスクマネージャーは、各診療科、部、センター及び室に配置する。リスクマネージャーは、院内報告制度に従って速やかに報告することを各部署ですすめる。また、医療事故防止対策マニュアルの見直しや現場での定期的なチェックを行い、医療安全管理体制を構築し、患者安全と医療の質向上に努める。

(職員研修の実施)

第6条 安全管理体制確保のための職員研修を定期的に実施する。

- 2 全ての医療者に医療チームが患者と協働するという意識の向上を図り、医療事故防止に資する為、研修の機会を年2回以上計画的に開催する。
- 3 新規採用職員及び研修医等に対して医療安全に関する昭和大学病院の基本的な考え方、方針、事項を周知させるための研修についても計画的に開催する。

(医療事故対応マニュアル)

第7条 医療事故発生時の対応方法は、医療事故対応マニュアルに沿って対応する。

- 2 Adverse Event や医療事故等の経験した診療科・部及び室は、発生した事実について速やかに、かつ誠実に、患者、家族あるいは遺族へ説明する。

(患者からの相談への対応)

第8条 患者が安心して医療をうけられる環境を整えるために、患者並びにその家族等からの相談や苦情に速やかに適切に応じるため総合相談センター内に「患者相談窓口」を置く、患者相談窓口業務の関する規定については別に定める。

- 2 当該指針関する閲覧について、患者及びその家族等からの申し出があった場合は、速やかにこれに応じるものとする。

また、その事務手続きは、医療安全管理室が行い、閲覧及び口頭による説明を原則とする。

- 3 患者及びその家族等による閲覧が行われた場合は、医療安全管理・対策委員会へ報告する事とする。

(その他医療安全の推進のために必要な基本方針)

第9条 医療事故防止のため、医療事故防止マニュアルの周知徹底を図る。マニュアルは、随時改訂していく。

- 2 医療チームにおける責任体制の明確化を図る。
- 3 感染に関わる事故については、「院内感染対策マニュアル」にそって対応する。
- 4 医薬品に係る安全管理体制並びに安全使用の確保の為に医薬品安全管理責任者を配置する。
- 5 医療機器に係る保守点検・安全管理体制並びに安全使用の確保の為に医療機器安全管理責任者を配置する。

附 則

1. この指針は、平成12年9月21日から施行する。
2. この改正指針は、平成15年3月20日から施行する。
3. この改正指針は、平成15年7月1日から施行する。
4. この改正指針は、平成18年7月20日から施行する。
5. この改正指針は、平成19年9月20日から施行する。
6. この指針の改廃は、医療安全管理・対策委員会の議を経て、病院運営委員会の承認を得るものとする。